



おかこれん ニュースレター

活性化事業への取り組み



鴨田7区 (岩津ブロック)
「子どもたちと作るサイエンスショー」
 主なねらいは「年齢の上下や男女の差異に関係なく、計画

平成30年度も終わろうとしています。ここで、「岡子連地域子ども会活性化事業」に取り組んでくださった5つの単位子ども会の活動内容を紹介します。来年度の活動の参考にしてください。

5つの単子の実践

や運営について話し合い、お互いの親近感を高めること。グループで助け合いながら自分たちの力で実験を進めること」

です。予め子どもたちと役員が話し合いを重ね、どんな実験がいいのかを決め、サイエンスショーの実演者に伝えました。



実践は7月15日大樹寺市民ホームで。液体窒素につけてバナナを凍らせたり、エチルアルコールを使って紙コップロケットを飛ばしたり。マツ

チを使う場面では、怖がる下級生を上級生がフォローする光景も見られました。質問コーナーでは、質問が途切れず、終了時刻になっても実演のおにいさん・おねえさんの周りには子どもたちが群がり、活気に満ちたイベントになりました。

滝新 (常磐・葵ブロック)
「手作りうちわで楽しい夏祭り」

この学区では、毎年7月下旬に地元挙げての「夏祭り」が開催されている。今年度の役員の方々は、「夏祭り用のうちわを子ども同士で製作することで学年を超えた絆を作るとともに、それを持つて参加することで地域住民としての意識を高める」ことをねらいとしました。

昨年はフォトフレーム作りが好評で、「今年も何か作りたい」という声がたくさんの中から出ていました。たまたま、毎年配

布されている夏祭りうちわが廃止され、「だったらつくってしまおう」というアイデアを逆手にとっての企画となりました。



実践は7月15日滝新集会所で実施されました。うちわそのものは役員が準備したものの、そこに貼り付ける材料は子どもたち自身も持ち込んできました。

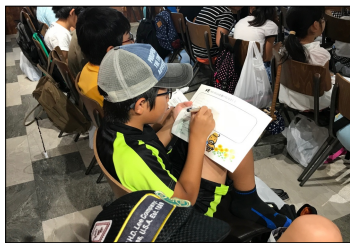
8つのグループに分かれての製作でしたが、学年や男女がバランスよく配分され、順調に進行されていきました。グループ編成が巧みであったことが奏功し、さまざまな場面で上級生が下級生を助けるシーンが見られました。



若松東 (南ブロック)

「夏の社会見学」

今回の取り組みのねらいは4つです。①地元を学ぶ(地元企業を見学し、その取り組みを知る) ②地産



地産地消を考える(地元の商品を消費すること)で岡崎の豊かさに気づく ③自主性を育てる(異学年の班を組む、自分たちで考えて行動させる) ④シエ

アする(学んだことを全員で共有する) 8月3日、福岡町の太田油脂を見学しました。会社で作られている製品について説明を受け、油絞り体験もすることで、



太田油脂の取り組みや地域で消費することの大切さを理解することができました。工場見学は上級生が指示して進めていき、整然とスムーズに終えることができました。

いちばん光ったのは、見学終了後、班ごとに学習した内容をまとめて発表した場面です。どの班もみんな相談しながら模造紙にまとめ、立派な内容を発表することができて、感心しました。

針崎東

(竜南ブロック) 「作って楽しむハロウィン祭り」

この子ども会の地区は、新しい住宅街ができて、近年飛躍的に子どもの数が増えました。ただ、習い事や部活動、学年の違いなどにより帰宅時間も異なり、今ひとつ交流が進まないという悩みを抱えています。

そこで、みんなが集まって楽しくできるイベントを考え、結果企画されたのが、ハロウィン祭りで



10月28日、公民館に集合し、衣装作りを行いました。材料は事前に子どもたちで話し合っで購入しました。自分を持ち込んでくる子もいました。

人数の割には狭い場所でしたが、逆に隣の友達には相談しやすい雰囲気でした。出来上がった後はお互いの衣装を見せ合いました。

衣装ができれば終わりというわけではありません。これを着て近所の家を回ります。地区の方が協力し、クイズを出したりお菓子を配ったりしてくださいます。



また、ハロウィンの衣装で交通指導をして下さる保護者もみえて、文字通り地域一体となった行事となりました。

西蔵前町

(岩津ブロック) 「思い切り遊ぶクリスマス会」

習い事やゲームにより、屋外での遊び

の機会が減っている中、子どもたちが集団で屋外で遊ぶ場を提供し、思いっきり遊ぶ。こんな企画でクリスマス会を実施しました。

内容は6年生主体で何度も話し合いがもたれました。アドバイザーとして子ども遊びに詳しいNPO法人「ハートトウハート」に協力をお願いしました。グラウンドでは、フットサル、あて鬼、体育館では段ボール基地、低学年向けにふわふわ遊具、遊びの最後にハンター鬼ごっこも準備しました。



12月16日、子どもたち108名が参加し、グラウンドでの開会式を終え、体育館を開

けると大きな歓声が上がりました。ゲームに人だかりができました。ハンター鬼ごっこでは、6年生とお父さんが鬼となり、地域の子とも大人と一緒に楽しむことができました。

その後、公民館に集合し、12班に分かれクリスマススケークを作りしました。低学年を助ける高学年の姿が、ほほえましいクリスマス会になりました。



この企画は、夏休みに行うことになっていましたが、猛暑のため延期になり、「クリスマス会」として行われました。関係の方々の熱意と努力に感謝いたします。

たくさんの申請をお持ちしています

活性化事業については、岡子連のHPに右のように書かれています。「なんだか難しそう」「新しく行事を起こすのはたいへん」と思われるかもしれませんが、そんなに構えて考える必要はありません。例年行われている行事にプラスアルファするだけです。そのプラスアルファとは**①どんな目的で行事を行うのか②どんな方法で、子どもを自主的に活動させるか**を明確にすることです。

例えば①に関して言えば「異学年の交流を深めたい」という目的を定めたとします。②については「異学年の班を作って、高学年が指導しながら進めていく」が考えられますが、ただ班を作るだけではうまく作業ができません。そこに育成者(子どもを指導する人)の工夫が必要なのです。リーダーとなる高学年と何度も話し合いを持ったり、地域の大人や各種団体の方にアドバイザーになってもらったりすることもいいでしょう。大切なのは、子どもが受け身ではなく「自分がやった」という成功感を持つことです。来年度も「活性化事業」に多くの申請をお待ちしています。

岡子連地域子ども会活性化事業について

1 目的

この事業は、子どもたちの「やりたい」を形にし、より魅力ある子ども会活動をすすめることができるよう、単位子ども会の事業を助成することにより、地域の子どもの活性化を図ることを目的とする。

2 制度概要

(1) 対象事業

子どもの自主性及び社会性の向上に資する、子どもが参画し活動する事業

(2) 助成額

上限5万円/件

(3) 対象予定数

予算の範囲内(申請は単位子ども会、もしくは複数の単位子ども会で行う)

(4) 対象経費

報償費、旅費、需用費、役務費、使用料及び賃借料

※ 弁当代・備品購入費など本来子ども会で負担する費用は対象外とする。

(5) 申請期間

4月1日から5月31日まで

【以下省略】